

令和8年3月 博士前期課程修了確定者アンケート集計結果

- ◎概要
- 本学の教育システムの成果を評価し、教育研究活動の改善に反映させるため、実際に本学で教育を受け、研究に従事した修了確定者に対しアンケートを実施した。
- ◎実施期間
- 令和8年3月1日から令和8年3月25日(学位記授与式)まで
- ◎実施方法
- 理事(学生・教育連携担当)・副学長名でアンケートの実施を電子メールで通知し、webによる回答として実施した。
- ◎調査対象
- (学位別)知識75名、情報82名、マテリアルサイエンス53名、融合8名 合計218名

◎回答者人数

学位	人数	回答率
知識科学	70	93%
情報科学	74	90%
マテリアルサイエンス	49	92%
融合科学	5	63%
合計	198	91%

各項目の無回答分は集計から除いている。

(参考)

令和6年		令和7年	
人数	回答率	人数	回答率
60	71%	64	74%
48	76%	57	77%
43	74%	42	75%
8	73%	3	30%
159	73%	166	73%

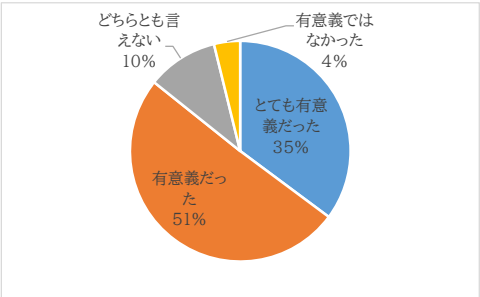
学生種別	人数
外国人留学生	70
寄宿舍居住者	105
東京サテライト	15
学内進学予定者	23

※各項目ごとの回答のうち、直近3年間における肯定的な回答(「とても良い+良い」等)の比率を比較した表をグラフ下に記載。

< I 教育システムについて >

1. 本学では、入学後1週間のオリエンテーションを実施し、履修ルールの説明、研究室紹介、各学修分野・センター企画、学生生活ガイダンス、進路ガイダンスなど様々な企画を実施し、本学の教育内容等を研修するとともに学生同士の交流を図っています。あなたにとってこの取組は有意義なものでしたか。該当の項目を選択してください。

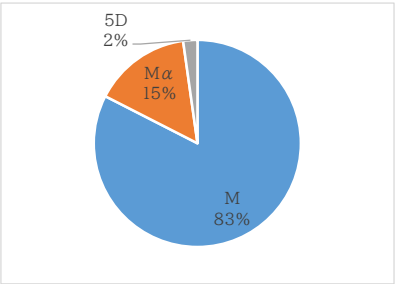
とても有意義だった	64
有意義だった	92
どちらとも言えない	19
有意義ではなかった	7



令和6年		令和7年		令和8年	
106/127	83%	122/138	88%	156/182	86%

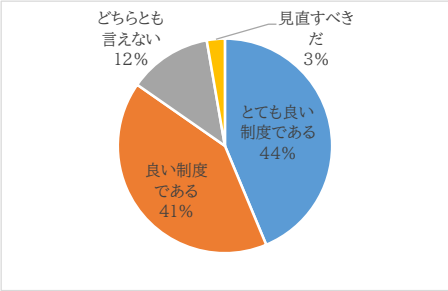
2. 本学では、最先端の高度な科学技術の習得を目指す者を対象とした5年一貫的な博士教育(5Dプログラム)、分野を変えて新たな専門分野に挑戦する者を対象とした2年3カ月～3年間の修士教育(Mαプログラム)の教育プログラムを準備し、高度できめ細かい教育を提供しています。あなたが選択したのはどの教育プログラムですか。該当の項目を選択してください。※融合科学共同専攻の学生は、「M」を選択してください。

M	151
Mα	28
5D	4



3. 本学では、単位制度を徹底するために専門科目の授業は極力午前中に開講し、午後は個別指導を行うためのチュートリアルワークと教室外における準備学習・復習の自学自習時間、及びグローバルコミュニケーションセンター開講科目、その他の科目等の開講に充てています。この制度についてどう思いますか。

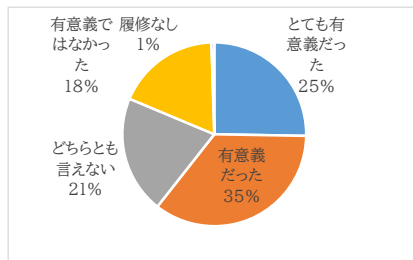
とても良い制度である	80
良い制度である	75
どちらとも言えない	23
見直すべきだ	5



令和6年		令和7年		令和8年	
110/139	79%	121/143	85%	155/183	85%

4. 本学では、社会的課題解決や新産業創出の共通基盤となる知識と方法論を学ぶ機会を提供するため、数理・人工知能・データ科学の知識と方法論に基づいた人間力及び創出力強化の必修講義として、S101「人間カイノベーション論」及びS102「創出力カイノベーション論」を設けています。この講義は、あなたにとって満足のいく有意義なものでしたか。

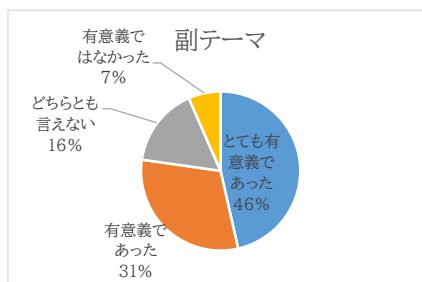
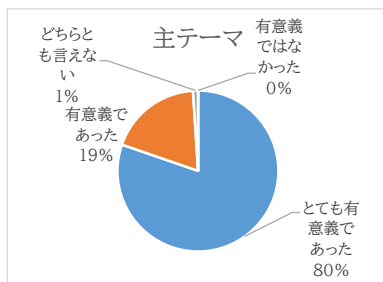
とても有意義だった	50
有意義だった	70
どちらとも言えない	41
有意義ではなかった	36
履修なし	1



令和7年	令和8年
112/163 69%	120/198 61%

6. 本学では、幅広い基礎知識と能力の修得のため、主テーマ研究の他に副テーマ研究を設け、見識を広めて主テーマ研究に活かす制度をとっています。この主テーマ・副テーマ制度は、あなたにとって有意義な制度でしたか。該当の項目を選択してください。
※以下、融合科学共同専攻の学生は、主テーマ研究を主任研究指導教員との研究、副テーマ研究をラボローテーション時の指導教員との研究に読み替え願います。

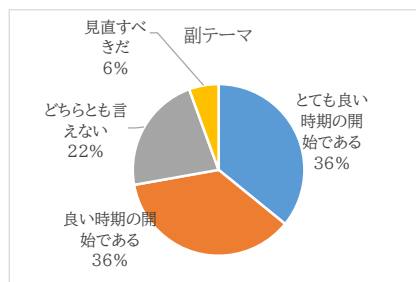
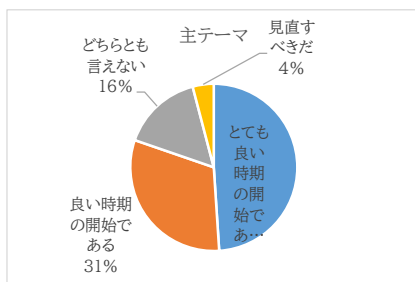
	主テーマ	副テーマ
とても有意義であった	159	92
有意義であった	37	61
どちらとも言えない	2	32
有意義ではなかった	0	13



主テーマ研究	令和6年	令和7年	令和8年
	155/159 97%	164/164 100%	196/198 99%
副テーマ研究	令和6年	令和7年	令和8年
	132/159 83%	136/164 83%	153/198 77%

7. 主テーマ研究及び副テーマ研究の開始時期についてどう思いますか。

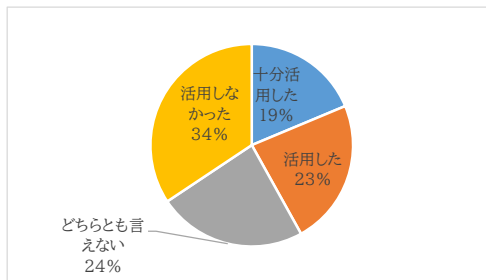
	主テーマ	副テーマ
とても良い時期の開始である	97	71
良い時期の開始である	62	72
どちらとも言えない	31	44
見直すべきだ	8	11



主テーマ研究	令和6年	令和7年	令和8年
	131/159 82%	138/164 84%	159/198 80%
副テーマ研究	令和6年	令和7年	令和8年
	120/159 75%	122/164 74%	143/198 72%

8. 本学では、計画的な履修を促すため、学修計画・記録書の作成を求めています。この学修計画・記録書は十分活用されましたか。

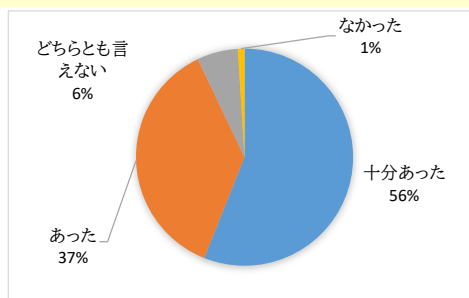
十分活用した	37
活用した	46
どちらとも言えない	47
活用しなかった	68



令和6年	令和7年	令和8年
66/159 42%	78/164 48%	83/198 42%

9. 本学では、主体的な学修を促す仕組み(ゼミでの発表、授業におけるレポート提出、学生グループによる取組等)があったと思いますか。

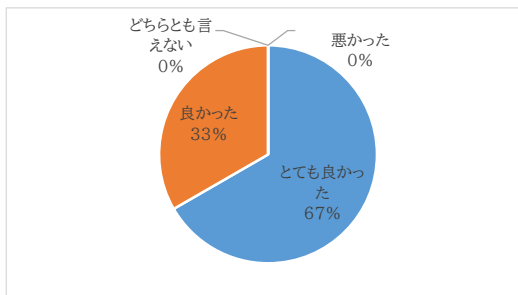
十分あった	111
あった	73
どちらとも言えない	12
なかった	2



令和6年	令和7年	令和8年
140/159 88%	152/164 93%	184/198 93%

10. 社会人コース(東京サテライト)の修了者にお聞きします。授業や研究指導はどうでしたか。

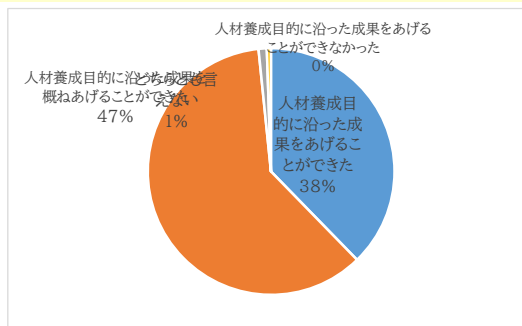
とても良かった	10
良かった	5
どちらとも言えない	0
悪かった	0



令和6年	令和7年	令和8年
18/20 90%	20/21 95%	15/15 100%

11. 本学では、次のような人材養成目的を掲げています。
 ・先端科学技術専攻: 先端科学技術の確かな専門性ととも、持続可能な社会において求められる幅広い視野や高い自主性、コミュニケーション能力を持つ社会や産業界のリーダーとして活躍できる高度科学技術イノベーション人材を育成する
 ・融合科学共同専攻: グローバル社会のニーズや動向に応じて、独創的な発想と卓越した研究力を基に、科学技術イノベーションの基盤を生み出し、社会実装できる博士人材を育成する
 あなたにとって、本学の博士前期課程は、上記の「人材養成目的に沿った成果」をあげることができるものでしたか。該当の項目を選択してください。

人材養成目的に沿った成果をあげることができた	69
人材養成目的に沿った成果を概ねあげることができた	111
どちらとも言えない	2
人材養成目的に沿った成果をあげることができなかった	1

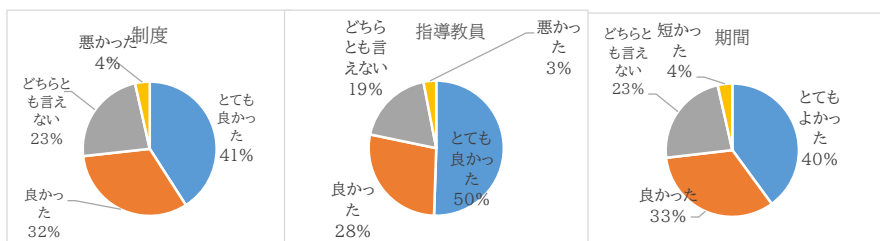


令和6年	令和7年	令和8年
133/159 84%	148/164 90%	180/183 98%

<Ⅱ 研究室指導体制について>

12. 導入配属(仮配属)について、どのような感想を持っていますか。

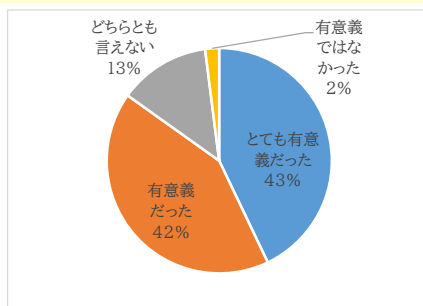
	制度	指導教員		期間
とても良かった	81	100	とてもよかった	79
良かった	64	55	良かった	66
どちらとも言えない	46	37	どちらとも言えない	46
悪かった	7	6	短かった	7



制度	令和6年	令和7年	令和8年
	104/154 68%	116/162 72%	145/198 73%
指導教員	令和6年	令和7年	令和8年
	126/154 82%	130/162 80%	155/198 78%
期間	令和6年	令和7年	令和8年
	102/159 66%	96/162 59%	145/198 73%

14. 本学では、学生1人に対して主指導教員、副指導教員、副テーマ指導教員又はインターンシップ指導教員の3人が様々な課題や立場から教育研究指導する複数教員指導制をとっています。この制度は、有意義な制度だと思いますか。該当の項目を選択してください。 ※以下、取得学位が修士(融合科学)の修了者は、主指導教員を主任研究指導教員、副指導教員を副主任研究指導教員、副テーマ指導教員又はインターンシップ指導教員をラボローテーション時の指導教員に読み替え願います

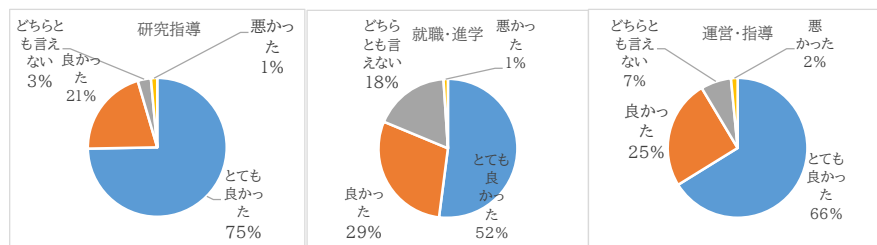
とても有意義だった	85
有意義だった	83
どちらとも言えない	26
有意義ではなかった	4



令和6年	令和7年	令和8年
114/154 74%	130/162 80%	168/198 85%

15. 主指導教員の指導について、どのような感想を持っていますか。

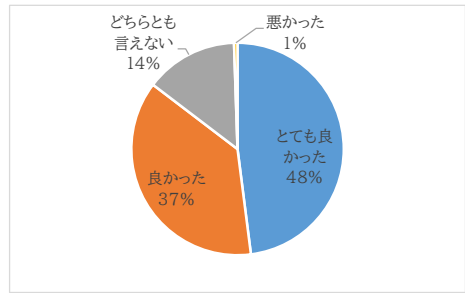
	研究指導	就職・進学	運営・指導
とても良かった	148	103	131
良かった	41	58	50
どちらとも言えない	6	35	14
悪かった	3	2	3



研究指導	令和6年	令和7年	令和8年
	147/154 95%	157/162 97%	189/198 95%
就職・進学指導	令和6年	令和7年	令和8年
	115/154 75%	134/162 83%	161/198 81%
研究室運営・ 学生生活指導	令和6年	令和7年	令和8年
	135/154 88%	149/162 92%	181/198 91%

16. 副指導教員の指導について、どのような感想を持っていますか。

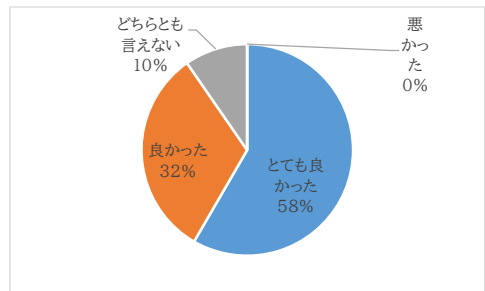
とても良かった	95
良かった	74
どちらとも言えない	28
悪かった	1



令和6年		令和7年		令和8年	
122/154	79%	128/162	79%	169/198	85%

17. 副テーマ指導教員又はインターシップ指導教員の指導について、どのような感想を持っていますか。

とても良かった	115
良かった	63
どちらとも言えない	19
悪かった	0

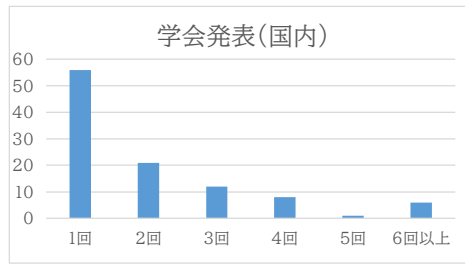


令和6年		令和7年		令和8年	
138/154	90%	149/162	92%	178/198	90%

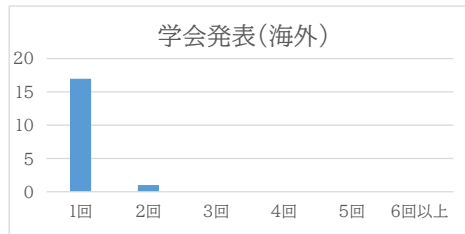
18. 本学在学中に学会発表は何回行いましたか。また、そのうち旅費等の助成を何回受けましたか。

【学会発表】

国内	
1回	56
2回	21
3回	12
4回	8
5回	1
6回以上	6

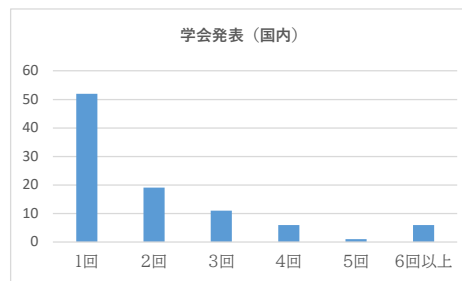


海外	
1回	17
2回	1
3回	0
4回	0
5回	0
6回以上	0

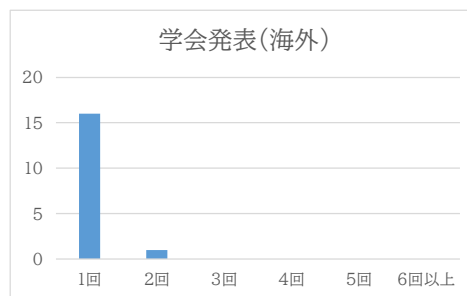


【うち費用助成あり】

国内	
1回	52
2回	19
3回	11
4回	6
5回	1
6回以上	6



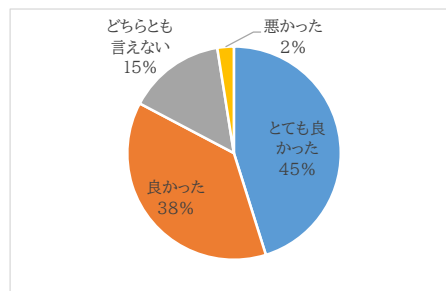
海外	
1回	16
2回	1
3回	0
4回	0
5回	0
6回以上	0



<Ⅲ 学生支援等について>

19. 教育支援課、学生支援課の事務職員の全体的な対応について、どのような感想を持っていますか。

とても良かった	89
良かった	74
どちらとも言えない	29
悪かった	5

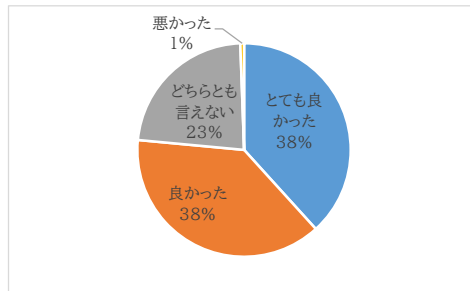


令和6年		令和7年		令和8年	
126/154	82%	144/160	90%	163/189	86%

<Ⅳ キャリア形成支援等について>

20. 本学では、全学一体となったキャリア形成支援・就職支援行事等を学生支援課就職支援室と就職担当教員が連携し実施しています。また、自由応募・推薦応募に対する支援体制の整備を進めてきました。これらの支援策について、どのような感想を持っていますか。

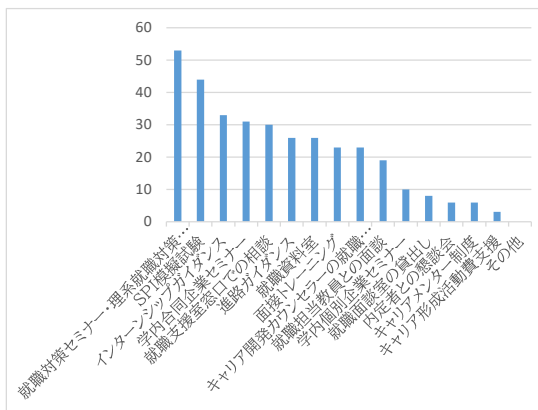
とても良かった	70
良かった	70
どちらとも言えない	42
悪かった	1



令和6年	令和7年	令和8年
80/111	92/113	140/183
72%	81%	77%

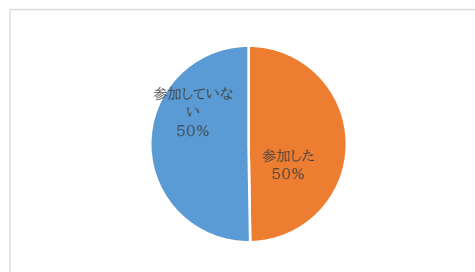
24. 本学でのキャリア支援で、役立ったものを上位3つまで選択してください。

就職対策セミナー・理系就職対策講座	53
SPI模擬試験	44
インターンシップガイダンス	33
学内合同企業セミナー	31
就職支援室窓口での相談	30
進路ガイダンス	26
就職資料室	26
面接トレーニング	23
キャリア開発カウンセラーの就職相談	23
就職担当教員との面談	19
学内個別企業セミナー	10
就職面談室の貸出し	8
内定者との懇談会	6
キャリアメンター制度	6
キャリア形成活動費支援	3
その他	0



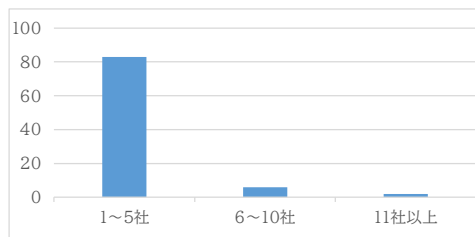
25. 在学中に企業インターンシップに参加しましたか。参加した場合には、参加企業数及び合計参加期間を記入してください。

参加した	91
参加していない	92



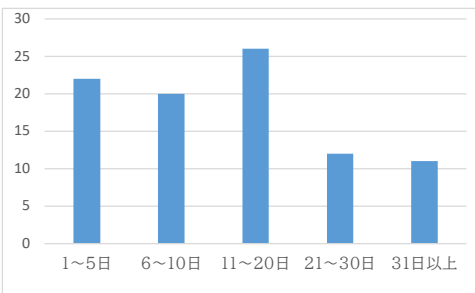
(参加した91名について)

参加企業数	
1～5社	83
6～10社	6
11社以上	2



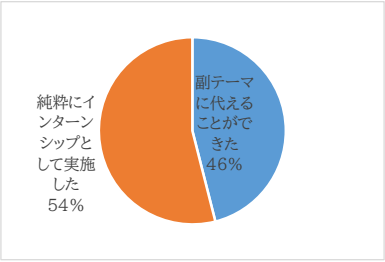
参加日数

1～5日	22
6～10日	20
11～20日	26
21～30日	12
31日以上	11



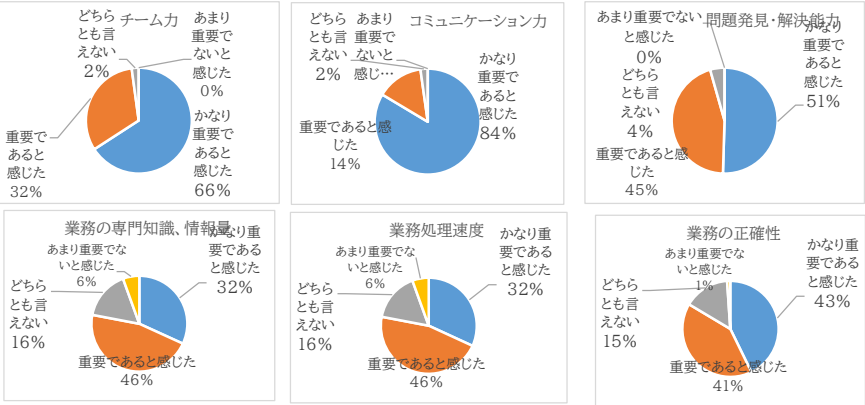
26. インターンシップは副テーマに代えて実施することができますが、どのような形で実施しましたか。

副テーマに代えることができた	41
純粋にインターンシップとして実施した	48



15. あなた自身の企業インターンシップでの経験を踏まえ、「産業界等で求められる共創力」として以下の各能力について、どのような感想を持ちましたか。

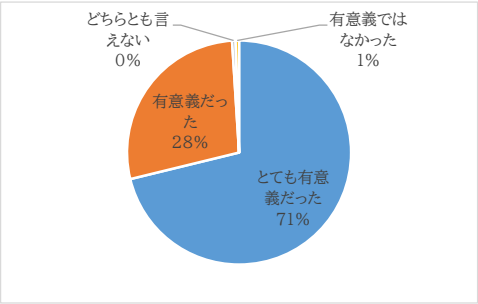
	チーム力	コミュニケーション力	問題発見・解決能力	業務の専門知識、情報量	業務処理速度	業務の正確性
かなり重要であると感じた	60	76	46	29	34	39
重要であると感じた	29	13	41	42	35	37
どちらとも言えない	2	2	4	15	20	14
あまり重要でないと感じた	0	0	0	5	2	1



<V 本学の満足度及び成果について>

26. あなたにとって本学の博士前期課程は有意義でしたか。

とても有意義だった	141
有意義だった	55
どちらとも言えない	1
有意義ではなかった	1



令和6年		令和7年		令和8年	
150/154	97%	150/154	97%	196/198	99%

令和8年3月 博士後期課程修了確定者アンケート集計結果

- ◎概要
- 本学の教育システムの成果を評価し、教育研究活動の改善に反映させるため、実際に本学で教育を受け、研究に従事した修了確定者に対しアンケートを実施した。
- ◎実施期間
- 令和8年3月1日から令和8年3月25日(学位記授与式)まで
- ◎実施方法
- 理事(学生、教育連携担当)・副学長名でアンケートの実施を電子メールで通知し、webによる回答として実施した。
- ◎調査対象
- (学位別)知識15名、情報20名、マテリアルサイエンス12名、融合3名 合計50名

◎回答者人数

学位	人数	回答率
知識科学	14	93%
情報科学	16	80%
マテリアルサイエンス	11	92%
融合	3	100%
合計	44	88%

各項目の無回答分は集計から除いている。

(参考)

令和6年		令和7年	
人数	回答率	人数	回答率
11	92%	9	90%
7	88%	9	82%
7	88%	14	88%
1	25%	1	100%
26	81%	33	87%

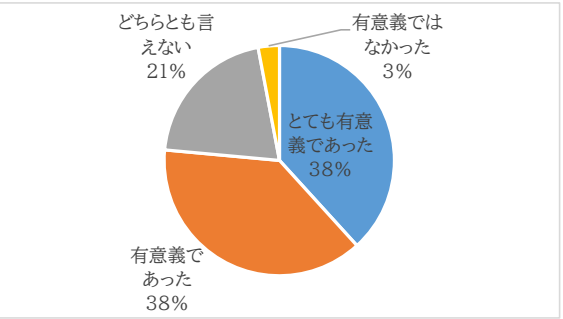
学生種別	人数
外国人留学生	24
寄宿舍居住者	21
東京サテライト	9
本学博士前期課程修了	28

※各項目ごとの回答のうち、直近3年間における肯定的な回答(「とても良い+良い」等)の比率を比較した表をグラフ下に記載。

< I 教育システムについて >

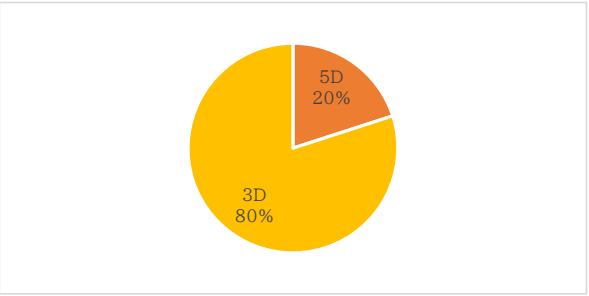
1-1. 本学では、入学後1週間のオリエンテーションを実施し、履修ルールの説明、研究室紹介、各学修分野・センター企画、学生生活ガイダンス、進路ガイダンスなど様々な企画を実施し、本学の教育内容等を研修するとともに学生同士の交流を図っています。あなたにとってこの取組は有意義なものでしたか。

とても有意義であった	13
有意義であった	13
どちらとも言えない	7
有意義ではなかった	1



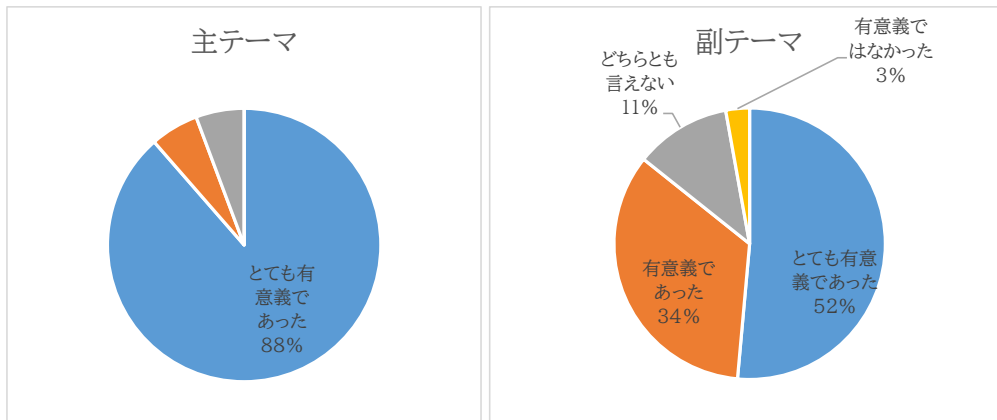
2-1. 本学では、最先端の高度な科学技術の習得を目指す者を対象とした5年一貫的な博士教育（5Dプログラム）を準備し、高度できめ細かい教育を提供しています。あなたが選択したのはどの履修プログラムですか。該当の項目を選択してください。※融合科学共同専攻の学生は、「3D」を選択すること。

5D	7
3D	28



3-1. 本学では、幅広い基礎知識と能力の修得のため、主テーマ研究の他に副テーマ研究を設け、見識を広めて主テーマ研究に活かす制度をとっています。この主テーマ・副テーマ制度は、あなたにとって有意義な制度でしたか。

	主テーマ	副テーマ
とても有意義であった	31	18
有意義であった	2	12
どちらとも言えない	2	4
有意義ではなかった	0	1



主テーマ研究

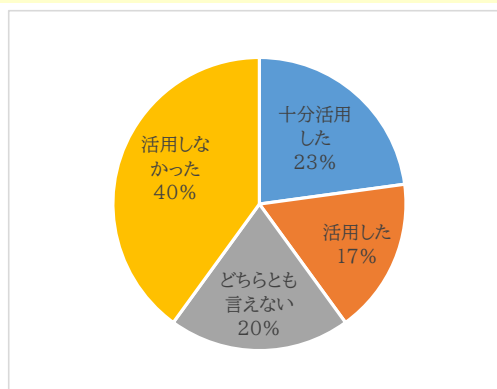
令和6年	令和7年	令和8年
20/20 100%	24/24 100%	33/35 94%

副テーマ研究

令和6年	令和7年	令和8年
18/20 90%	23/24 96%	30/35 86%

4-1. 本学では、計画的な履修を促すため、学修計画・記録書(旧履修計画書)の作成を求めています。この学修計画・記録書(旧履修計画書)は十分活用されましたか。

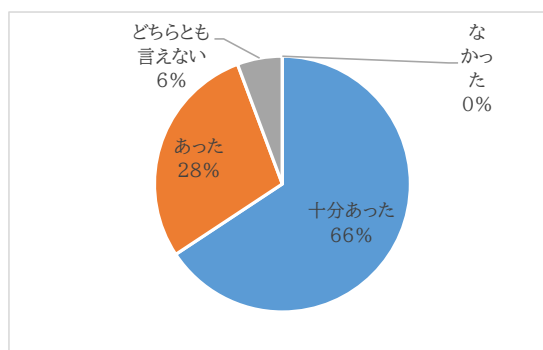
十分活用した	8
活用した	6
どちらとも言えない	7
活用しなかった	14



令和6年	令和7年	令和8年
9/20 45%	14/24 58%	14/35 40%

5-1. 本学では、主体的な学修を促す仕組み(ゼミでの発表、講義におけるレポート提出、学生グループによる取組等)があったと思いますか。

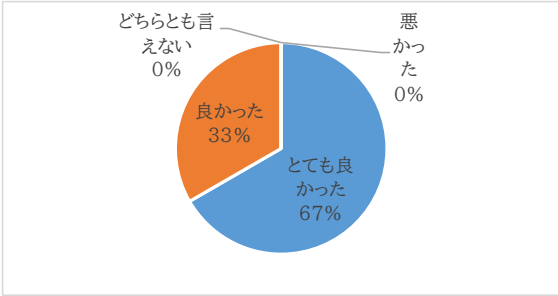
十分あった	23
あった	10
どちらとも言えない	2
なかった	0



令和6年	令和7年	令和8年
18/20 90%	23/24 96%	33/35 94%

7-1. 社会人コース(東京サテライト)の修了者にお聞きします。講義や研究指導についてどう思いますか。

とても良かった	6
良かった	3
どちらとも言えない	0
悪かった	0

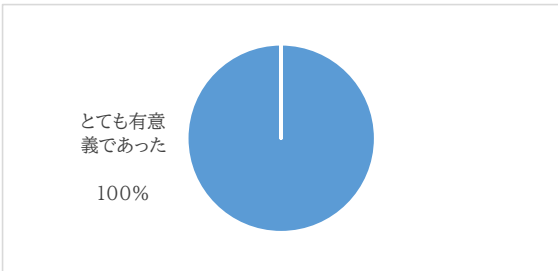


令和6年		令和7年		令和8年	
6/6	100%	8/8	100%	9/9	100%

9. 本学では、高度で先端的・実践的な大学院レベルの学びの場を社会人に提供するため、社会人のニーズやライフスタイルを踏まえた教育を展開することを目的として、東京社会人コース及び産学連携社会人コースにおいて「価値創造実践プログラム」及び「サステナブルサービスリーダー育成プログラム」を設けています。これらのプログラムは、あなたにとって満足のいく有意義なものでしたか。

とても有意義であった	2
有意義であった	0
どちらとも言えない	0
有意義でなかった	0

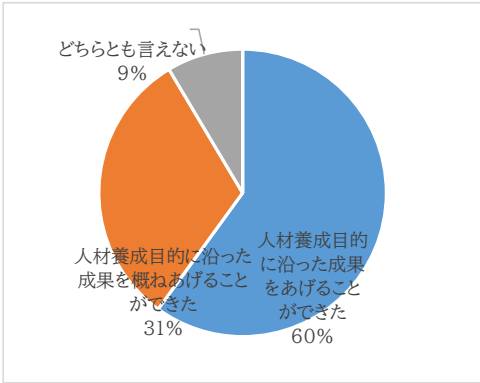
※履修なしが7名



令和8年	
2/2	100%

10-1. 本学では、専攻毎に次のような人材養成目的を掲げています。・先端科学技術専攻:先端科学技術の確かな専門性とともに、幅広い視野や高い自主性、コミュニケーション能力を持つ、社会や産業界のリーダーを育成する。・融合科学共同専攻:グローバル社会のニーズや動向に応じて、独創的な発想と卓越した研究力を基に、科学技術イノベーションの基盤を生み出し、社会実装できる博士人材を育成する。あなたにとって、本学の博士後期課程は、上記の「人材養成目的に沿った成果」をあげることができるものでしたか。

人材養成目的に沿った成果をあげることができた	21
人材養成目的に沿った成果を概ねあげることができた	11
どちらとも言えない	3
人材養成目的に沿った成果をあげることができなかった	0

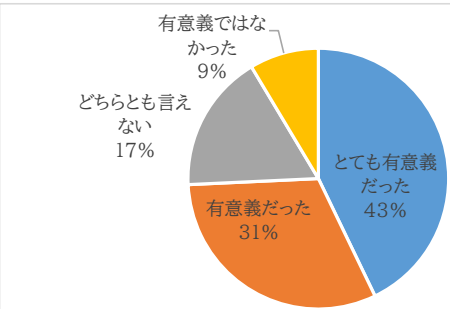


令和6年		令和7年		令和8年	
25/26	96%	32/32	100%	32/35	91%

<Ⅱ 研究室指導体制について>

11-1. 本学では、学生1人に対して主指導教員、副指導教員、副テーマ指導教員又はインターンシップ指導教員の3人が様々な課題や立場から教育研究指導する複数教員指導制をとっています。この制度は、有意義な制度だと思いますか。※以下、融合科学共同専攻の学生は、主指導教員を主任研究指導教員、副指導教員を副主任研究指導教員、副テーマ指導教員又はインターンシップ指導教員をラポローテーション時の指導教員に読み替え願います。

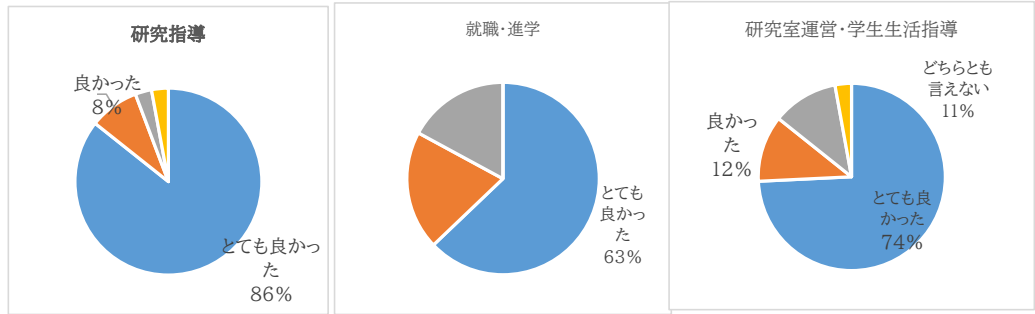
とても有意義だった	15
有意義だった	11
どちらとも言えない	6
有意義ではなかった	3



令和6年		令和7年		令和8年	
25/26	96%	29/31	94%	26/35	74%

12-1. 主指導教員の指導について、どのような感想を持っていますか。

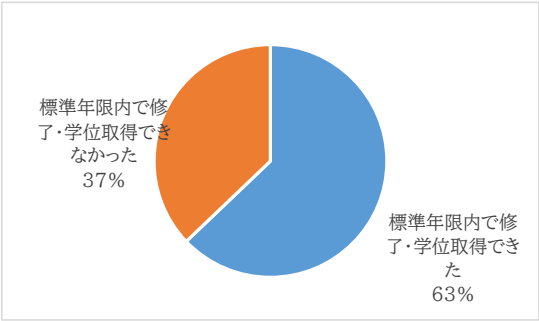
	研究指導	就職・進学	研究室運営・ 学生生活指導
とても良かった	30	22	26
良かった	3	7	4
どちらとも言えない	1	6	4
悪かった	1	0	1



研究指導	令和6年		令和7年		令和8年	
	26/26	100%	31/31	100%	33/35	94%
就職指導	令和6年		令和7年		令和8年	
	19/26	73%	28/31	90%	29/35	83%
研究室運営・ 学生生活指導	令和6年		令和7年		令和8年	
	24/26	92%	24/26	92%	30/35	86%

13. あなたは、標準修業年限(3カ年)で博士学位を取得できましたか。

標準年限内で修了・学位取得できた	22
標準年限内で修了・学位取得できなかった	13



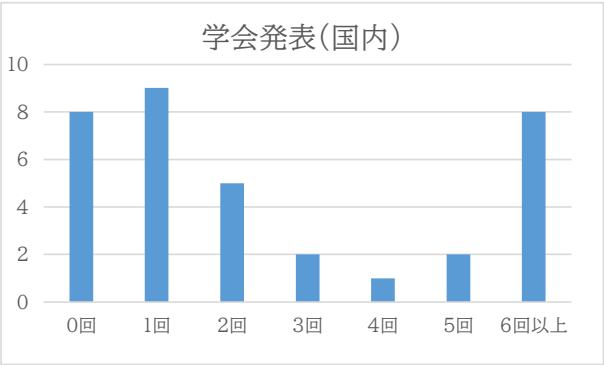
【標準年限を越えた理由】

研究の遂行上、予期せぬ結果が出たため	1
期待した結果がえられず、学会論文等が受理されなかったため	2
長期履修制度を利用した計画的なもの	2
指導教員が途中で変わり、テーマ変更をしたため	1
テーマの設定が適切でなく、途中でテーマの変更をしたため	2
研究結果のまとめに時間を費やしたため	3
病気等、研究を続けることが困難な期間があったため	1
主指導教員と研究の方向性で意見が一致しなかったため	1

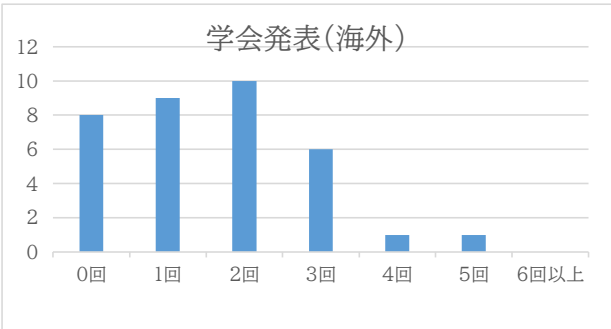
14-1. 本学博士後期課程在学中に学会発表は何回行いましたか。また、そのうち旅費等の助成を何回受けましたか。

【学会発表】

国内	
0回	8
1回	9
2回	5
3回	2
4回	1
5回	2
6回以上	8

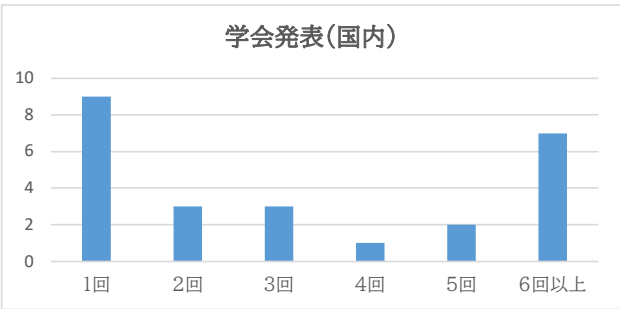


海外	
0回	8
1回	9
2回	10
3回	6
4回	1
5回	1
6回以上	0

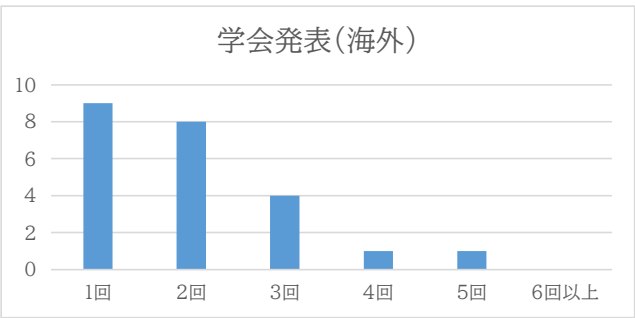


【うち費用助成あり】

国内	
1回	9
2回	3
3回	3
4回	1
5回	2
6回以上	7

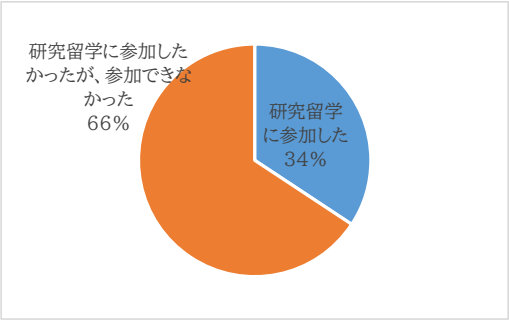


海外	
1回	9
2回	8
3回	4
4回	1
5回	1
6回以上	0



15-1. 博士後期課程では、研究留学及び学外研修(インターンシップ)を奨励しています。あなたはそれらに参加しましたか。

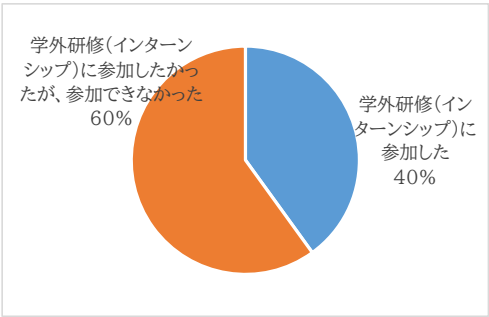
研究留学に参加した	12
研究留学に参加したかったが、参加できなかった	23



【参加できなかった理由】

主テーマ遂行で忙しかったため。
社会人のため時間の都合がつけられず。
修了がさらに遅くなるため、
ビザの申請ができなくなりました。
先生は興味がなかった
タイミングが合わなかった
私の主たる研究は非常に密度が高く、これらのプロジェクトに取り組む時間はほとんどなかったです。
博士後期課程では研究活動および論文執筆に注力していたため、学外研修(研究留学)には参加していませんが、国際会議や共同研究を通じて研究交流を行いました。
知らなかった
時間がなかった
自身の研究に時間を割きたいため
持っているコネクションと時期が合わなかった
中国の日本人に対する不法なスパイ容疑による逮捕件数が多いニュースを受けて、中国内の大学での研究留学(半年ほど)を断念しました。
Good for studying.
did not have the opportunity

学外研修(インターンシップ)に参加した	14
学外研修(インターンシップ)に参加したかったが、参加できなかった	21

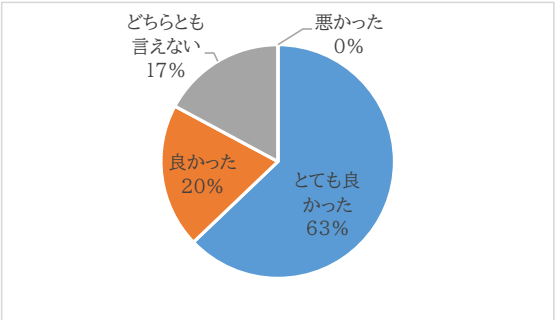


【参加できなかった理由】

研究に専念したため。
理想的なインターンシップ見つからなかったため
希望企業との日程が留学と被り、合わなかったため
中国の日本人に対する不法なスパイ容疑による逮捕件数が多いニュースを受けて、中国内の大学での研究留学(半年ほど)を断念しました。

16-1. 副指導教員の指導について、どのような感想を持っていますか。

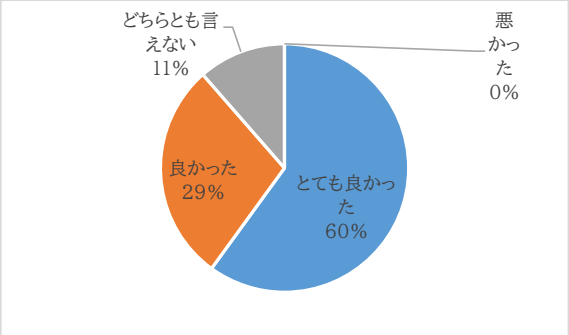
とても良かった	22
良かった	7
どちらとも言えない	6
悪かった	0



令和6年		令和7年		令和8年	
21/26	81%	28/31	90%	29/35	83%

17-1. 副テーマ指導教員又はインターンシップ指導教員の指導について、どのような感想を持っていますか。

とても良かった	21
良かった	10
どちらとも言えない	4
悪かった	0

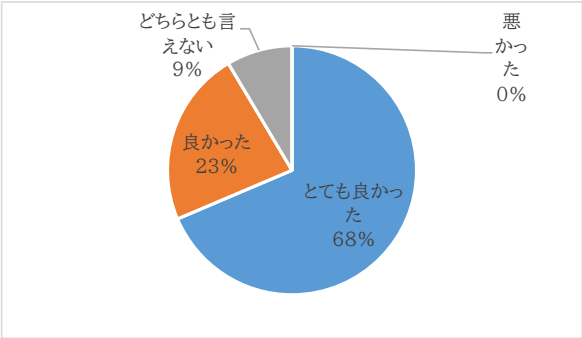


令和6年		令和7年		令和8年	
26/26	100%	29/31	94%	31/35	89%

<Ⅲ 学生支援等について>

18-1. 教育支援課、学生支援課の事務職員の全体的な対応について、どのような感想を持っていますか。

とても良かった	24
良かった	8
どちらとも言えない	3
悪かった	0

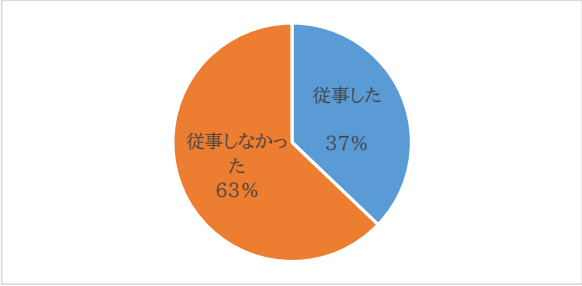


令和6年		令和7年		令和8年	
24/26	92%	29/31	94%	32/35	91%

21-1. 本学の独自雇用型奨学金UA(ユニバーシティ・アシスタント)制度について

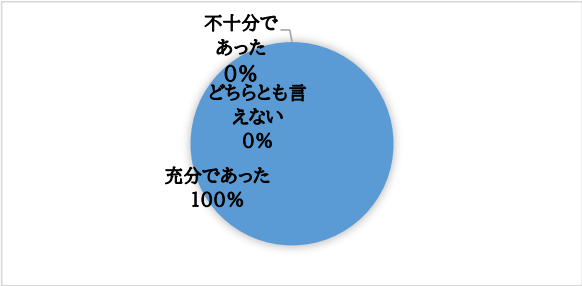
あなたは在学中にUAに従事しましたか。

従事した	13
従事しなかった	22



UA制度による支援内容(年間最大60万円程度)について、どのような感想をお持ちですか。

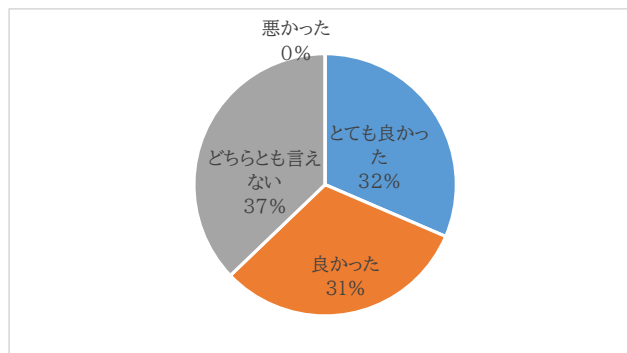
充分であった	13
どちらとも言えない	0
不十分であった	0



<Ⅳ キャリア形成支援等について>

23-1. 本学では、全学一体となったキャリア形成支援・就職支援行事を学生支援課就職支援室と就職担当教員が連携し実施しています。また、企業への博士号保有者の就職に力を入れています。これらの支援策について、どのような感想を持っていますか。

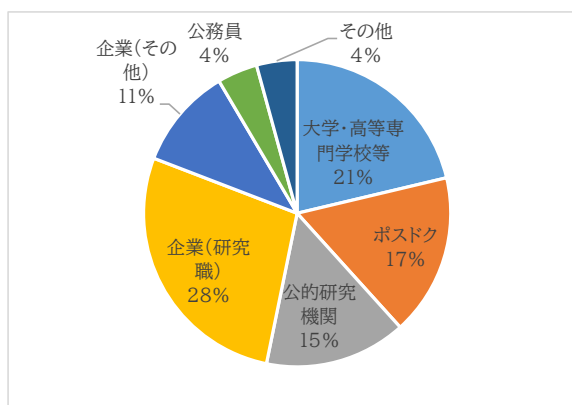
とても良かった	11
良かった	11
どちらとも言えない	13
悪かった	0



令和6年		令和7年		令和8年	
13/20	65%	17/23	74%	22/35	63%

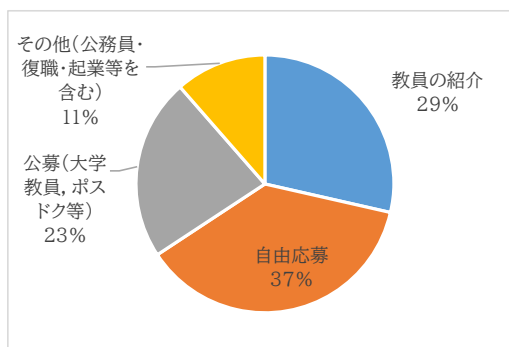
24. 就職先候補として検討したものについて、該当する項目を全て選択してください。(複数回答可)

大学・高等専門学校等	10
ポストク	8
公的研究機関	7
企業(研究職)	13
企業(その他)	5
公務員	2
その他	2



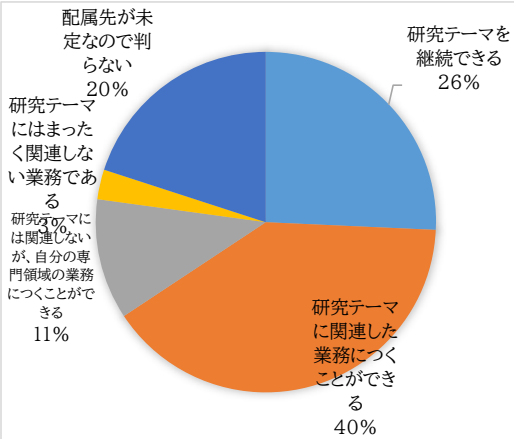
25. 最終就職先への応募方法について、該当の項目を選択してください。

教員の紹介	10
自由応募	13
公募(大学教員, ポストク等)	8
その他(公務員・復職・起業等を含む)	4



26. 博士論文研究のテーマと就職先の業務との関連性について該当の項目を選択してください。

研究テーマを継続できる	9
研究テーマに関連した業務につくことができる	14
研究テーマには関連しないが、自分の専門領域の業務につくことができる	4
研究テーマにはまったく関連しない業務である	1
配属先が未定なので判らない	7



27-1. 在学中に企業インターンシップに参加しましたか。参加した場合には、参加期間を記入してください。

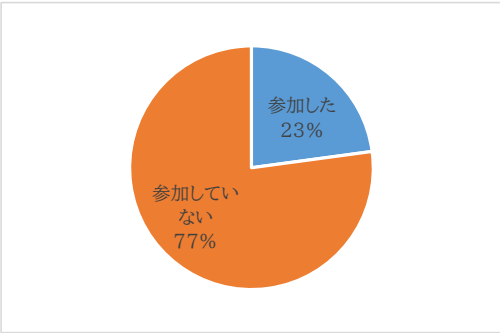
参加した	8
参加していない	27

(参加した者の参加日数)

1日、7日、9日、30日、60日、20ヵ月、1年以上

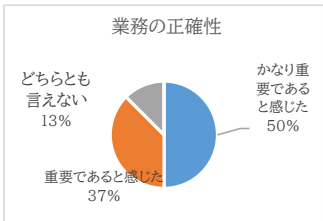
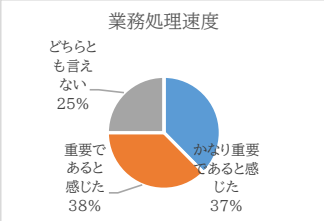
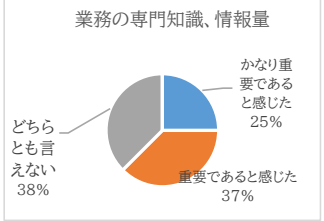
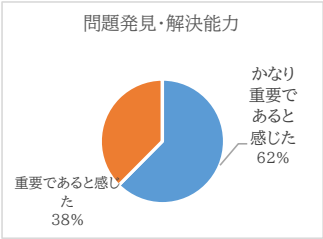
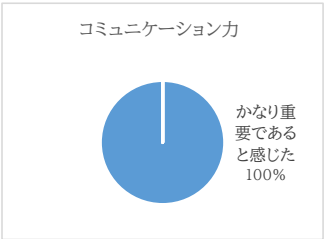
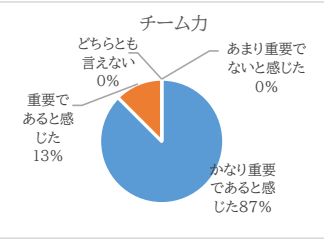
Q.インターンシップは副テーマに代えて実施することができますが、どのような形で実施しましたか。

副テーマに代えることができた	1
純粹にインターンシップとして実施した	7



28. あなた自身の企業インターンシップでの経験を踏まえ、「産業界等で求められる共創力」として以下の各能力について、どのような感想を持ちましたか。

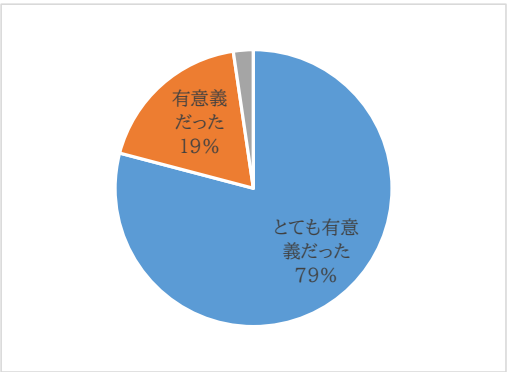
	チーム力	コミュニケーション力	問題発見・解決能力	業務の専門知識、情報量	業務処理速度	業務の正確性
かなり重要であると感じた	7	8	5	2	3	4
重要であると感じた	1	0	3	3	3	3
どちらとも言えない	0	0	0	3	2	1
あまり重要でないと感じた	0	0	0	0	0	0



<Ⅴ 本学の満足度及び成果について>

29-1. あなたにとって本学の博士後期課程は有意義でしたか。

とても有意義だった	34
有意義だった	8
どちらとも言えない	1
有意義ではなかった	0



令和6年		令和7年		令和8年	
25/26	96%	31/31	100%	42/43	98%